

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 22 日現在

機関番号：82406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25463481

研究課題名(和文) 小児がんの子どもへの病名病状説明に対して親が抱く不確かさへの看護介入

研究課題名(英文) Intervention Research: Parents' Regarding Explanations of Disease Name and Condition to Children with Childhood Cancer

研究代表者

山下 早苗 (Yamashita, Sanae)

防衛医科大学校(医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究・その他・教授)

研究者番号：40382444

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：看護介入の標準化を図る目的でDVD「小児がんの子どもへの病名病状説明(親の体験談、子どもの体験談、小児科医の考え方、小児科医から子どもへの説明の様子を収録)」を制作した。その後、制作したDVDが、子どもへの病名病状説明に悩んでいる小児がんの子どもをもつ親に有効であるか検討するために、小児がんの子どもをもつ親の会(鹿児島県)に協力を求め調査を行った。平成27年4月に研究代表者の所属が変更(鹿児島県鹿児島市から埼玉県所沢市)になったため調査が進まず現在評価検討中であるが、概ね良い評価が得られている。

研究成果の概要(英文)：Intervention Research: The Specific Aim

1. Finalize the development of a video to be used as a decision support tool for parents who consider disclosing this information to their children. 2. Determine if parental uncertainty changes after watching this video, as measured by scores on an investigator-designed questionnaire that addresses the following themes: ("Lack of clarity regarding the method", "Lack of information regarding the disease or condition and the appropriateness of explaining the disease name and condition", and "Vagueness of necessity"). 3. Determine if parental coping improves after this video, as measured by regression analysis about parents' uncertainty (as and coping scale as measured by Ozeki).

研究分野：小児看護

キーワード：不確かさ 小児がん 病名病状説明 親 看護介入 介入研究

1. 研究開始当初の背景

小児がんの多くは化学療法や放射線治療の感受性が高く、生存率は現在 70~80%にまで向上しており、小児がん患者の長期生存例や Carry Over する例が増えている。しかしながら、小児がん に用いられる化学療法や放射線治療、手術などの治療は、それ自体が子どもの正常な発育や発達 を損なう可能性があり、時には深刻な晩期障害 (低身長、性腺機能障害による第二次性徴の欠如 や不妊症、二次がんなど) を合併する例も少なくない。小児がんが慢性疾患と考えられるようになった現在、子ども自身が自分の病気について十分理解し療養管理を行っていきけるように支援することが求められている。

米国では5歳頃から病気の説明や病名を告げている。わが国においては、民法上未成年者である子どもが小児がん と診断された場合、まず親に病名や予後が告げられ、親が子どもに代わって 治療法を選択する。子どもに対する病名説明は、親が同意した場合に行っており、子どもが自分の病名を知らされるのが、発病後何年も経ってからというケースも少なくない。小児白血病研究会が実施した子どもへの病名病状説明に関する調査¹⁾では、1997年と2008年の現状を比較すると、医療者の意識は大きく変化しているが、一般の意識には変化がないことが報告されている。子どもに病名を説明した場合、「病気を受け入れられるか」「死への恐怖が増すのではないか」「不安が強くなるのではないか」「ショックを受けるのではないか」「病気を治す意欲や気力が なくなるのではないか」「子どもは知りたいと思っていないのではないか」「かわいそう」など、親は子どもに伝えることに対して負の感情や自責の念をもち、子どもに『話す』か『話さない』かが議論されやすい^{2) 3)}。親にとって、子どもに病名を伝えない理由の中には「何を根拠に子どもに病名を伝えることが良いことかわからない」「子どもは聞いてこないのどう思っているのかわからない」「病名を伝えた後に子どもから質問されたら、どう対応していいかわからない、対応できる自信がない」という親側の要因であることが少なくない^{2) 3)}。一方、病名を知ること に対する子どもの認識は、がんや白血病である場合、他の疾患と比べて若干低い、知りたいと思う子どもの割合は親よりも多い¹⁾。日本の小児がん経験者たちが自ら行った調査⁴⁾からも、「子どもが知りたいときに知らせてほしい」と年齢に関係なく説明を望む意見が出されている。親は 子どもに病名を伝えない理由として、子どもの意思を確認できないことを挙げているが、学童期以降の子どもになると、親の自分への思いを十分に感じとり、親が話してくれる以上のことは質問しない。親が自分に話せる許容範囲を見極めて配慮している状況がある³⁾。

日本の場合、子どもへの病名病状説明は、子どもの養育者である親が同意した場合に

行っているため(子どもの権利条約第5条)、小児がんの子どもへの病名病状説明を可能にするためには親の気持ちに十分配慮しながら支援する必要がある。親の承諾が得られにくい状況を打開するための看護介入に関する研究は、子どもの最善の利益を保障することを目的としており、研究意義が大きい。

<文献>

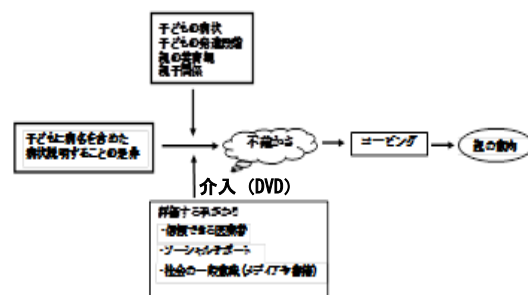
- 1) 堀浩樹：子どもへの病気の説明 - 白血病・小児がんの場合 - .小児保健研究, 68(2), 185-190, 2009.
- 2) 山下早苗, 猪下光：外来通院している小児がん患者への告知に対する親の意向 - 告知に対する親の不確かさに焦点をあてて - . 日本小児看護学会誌, 14(2), 7-15, 2005.
- 3) 小児がんをもつ子どもと家族の看護ケアガイドラインの開発と検討」研究班：小児がん看護ケアガイドライン2008 - 小児がんの子どもへのQOLの向上をめざした看護ケアのために -, 7, 2008.
- 4) Fellow Tomorrow 編集委員会：病気の子どもへの気持ち 小児がん経験者のアンケート結果から. がんの子供を守る会, 東京, 2001.

2. 研究の目的

本研究は、平成 22-24 年度科学研究費補助金 (基盤研究 C、代表者：山下早苗)「小児がんの子どもへの病名・病状説明に対する親の不確かさ」(課題番号 22592489)を基盤とする発展的研究である。本研究では、先行研究結果をもとに、小児がんの子どもをもつ親が、子どもへの病名病状説明に対して抱く不確かさを効果的に管理できるよう、看護介入の開発を目指す。

3. 研究の方法

平成 22-24 年度科学研究費補助金 (基盤研究 C、代表者：山下早苗)「小児がんの子どもへの病名・病状説明に対する親の不確かさ」(課題番号 22592489)で明らかになった結果をもとに、本研究ではまず、看護介入として標準化が確保できるDVDを制作する。そのDVDを、子どもに病名病状説明を行っていない、外来通院している 10 代の小児がんの子どもをもつ親を対象に質問紙調査を行い、看護介入の評価を行う。



4. 研究成果

(1)25年度

小児がんの子どもへの病名病状説明について、悩んでいる親への看護介入の方法として、標準化が確保できるDVD「小児がんの子どもへの病名病状説明(親の体験談、子どもの体験談、小児科医の考え方、子どもへの説明の実際の様子)」(35分)を制作した。

DVDに収めた内容は、先行研究⁵⁾「小児がんの子どもへの病名病状説明に対して親が抱く不確かさ」結果に基づき、小児がんの子どもに病名病状説明を行う必要性、説明の方法、説明後の子どもの反応とその対応などを重点化した。原案監修は山下早苗(研究代表者)が行い、制作はテレビコマーシャル撮影等を行っている撮影編集専門の会社である制作会社 MIL BOARD(鹿児島市)に依頼した。出演は、既に子どもへの説明を経験した親2名(公益財団法人 小児がんの子どもを守る会)と、説明を受けた経験がある当事者(NPO法人 にこスマ九州)、鹿児島大学小児科医(血液腫瘍専門医として20年の経験がある小児科医)から協力を得た。DVD制作にあたっては、主演者全員にDVDを観て頂き編集内容に間違いがないか、出演者それぞれに確認してもらった。また、著作権や編集および複製の権限は山下早苗(研究代表者)と制作会社 MIL BOARDにあることについて、主演者全員より承諾を得た。



(2)26-28年度

制作したDVDが、子どもへの病名病状説明に悩んでいる小児がんの子どもをもつ親に対し、効果があるか評価するためにプレテストを行った。プレテストの実際としては、小児がんの子どもをもつ親の会(鹿児島市)に協力を求め、制作したDVDを数枚委譲し、子どもへの病名病状説明に悩んでいる親がいれば、DVDの視聴をしたい時に観て欲しいと促すように説明した。プレテストにより、看護介入の時期と評価方法について、小児がんの子どもをもつ親の会(鹿児島市)と小児がん専門医(鹿児島大学医学部歯学部病院)、医療ソーシャルワーカー(鹿児島大学医学部歯学部病院)と共に検討を行う予定であったが、DVD視聴を希望する対象者が少なく、評価に至らなかった。

平成27年度に山下早苗(研究代表者)の所属機関が、鹿児島大学医学部保健学科(鹿

児島県鹿児島市)から防衛医科大学校(埼玉県所沢市)に異動になったため、事業期間を1年延長して研究計画を変更することにした。

平成28年度は、防衛医科大学校病院看護部に研究協力を依頼し、小児科病棟で勤務する看護師(小児がん看護の経験者)を対象に、制作したDVDを視聴してもらい、看護介入方法の妥当性について、質的調査およびアンケート調査を行った。現在、データ分析を進めているところである。

<文献>

5) 山下早苗: 小児がんの子どもへの病名・病状説明に対して親が抱く不確かさ. 日本小児看護学会誌, 19(3), 9-17, 2010.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 1 件)

① 山下早苗原案監修: 小児がんの子どもへの病名病状説明(親の体験談、子どもの体験談、小児科医の考え方、説明の様子) DVD. 平成25-27年度科学研究費補助金基盤研究(c) 課題番号25463481: 小児がんの子どもへの病名病状説明に対して親が抱く不確かさへの看護介入, 全35分, 制作会社MIL BOARD, 2014. 3. 20.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山下 早苗 (Yamashita, Sanae)
防衛医科大学校 (医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究・その他・教授)
研究者番号：40382444

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()